

再発見！何でも見てやろう トピックス（8月）

比叡山延暦寺拝観

池上憲治

比叡山延暦寺。言わずと知れた日本仏教の母山です。

西暦 788 年（延暦 7 年）伝教大師最澄が根本中堂の前身である一乗止観院を建立した際、本尊の薬師瑠璃光如来の宝前に灯明をかかげたのが不滅の法灯で、最澄の「明らけく後の 仏の御世までも 光りつたへよ法のともしび（仏の光であり、法華経の教えを表すこの光を、末法の世を乗り越えて弥勒如来がお出ましになるまで消えることなくこの比叡山でお守りし、すべての世の中を照らすように）」との願いを込めたと教えは今なお皆の心に響いています。

そして「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」又、建物や仏像だけではなく、知識もあり、実践力、実行力も伴う人こそは国の宝（国宝）であると、最澄は教えています。

京都御所の北東に位置する比叡山延暦寺は、その麓にある日吉大社と共に鬼門封じの重要な役目もあり、今まで各宗派の宗祖が修行した四宗兼学の道場でもありました。

8月の行事として比叡山延暦寺参拝を行い、参加した人達は大変神聖で厳かな根本中堂や文殊楼、大黒堂、萬拜堂、戒壇院、東塔、阿弥陀堂、大講堂そして国宝殿と東塔地区をくまなく回って、それぞれ意義深いお堂で修行者達の歴史を学ぶ事が出来、根本中堂での僧侶の人の説法に熱心に耳をかた向けていました。





修理工事中の根本中堂



比叡山坂本観光ボランティアガイドの人



文殊楼・・根本中堂への延暦寺の山門



戒壇院・・正式な僧として認められる授戒の堂



阿弥陀堂・・先祖を供養する堂



大講堂・・学問修行の場、法会などの道場



滋賀院門跡にもある不滅の法灯